



JAPAN HERITAGE
日本遺産

あか 灯り舞う半島 能登 ～熱狂のキリコ祭り～ (石川県)

素材研究 (国内)

人々の願い・想いが弾ける 能登の里山里海に輝く灯籠神事

日本海に突き出た能登半島は古来より海上交通の要衝の一つとして様々な文化が流入し、今でも多様な民俗文化が息づいています。今回は能登の夏から秋を彩る代表的な祭礼であり、日本遺産にも認定されているキリコ祭りをご紹介します。



能登のキリコ祭り。ハイライトはキリコに灯りがともる夜



松明の中でキリコが舞う「あばれ祭」(能登町)



穴水町の「沖波大漁祭り」ではキリコが海へ



女性がキリコを担ぐ「西海祭り」(志賀町)

キリコ祭りのスタイルも多様です。七尾市の「石崎奉燈祭」は男衆の掛け声とともに色鮮やかな6基のキリコが登場します。能登町で見られるのは、松明が燃える広場でキリコが乱舞する「あばれ祭」。輪島市「輪島大祭」は、松明に付けた御幣を奪い合う重蔵神社の祭礼をはじめ、4

キリコ祭りは石川県の輪島市や珠洲市、能登町、七尾市、穴水町、志賀町など、能登半島の3市3町、約200地区で行われる灯籠神事。中国起源の祭りが京都を経て日本中に広がる中、能登ではキリコ祭りとして根付いたとされ、「都会に出た若者も、キリコ祭りの時には必ず能登に戻る」といわれるほど、この地方では重要な祭礼です。

一般的にはキリコと呼ばれる直方体の灯籠が、神輿とともに巡行します。重さは約2トン、高さは約15メートルに及ぶものもあり、墨書の大字や武者絵などが描かれ、漆や金箔が施されるなど、意匠は地域ごとに様々です。



地域の味覚を生かした能登丼



能登の名景・千枚田



輪島市「名舟大祭」では御陣乗太鼓を奉納

日間で4地区の祭りが見られます。珠洲市「宝立七夕キリコまつり」ではキリコが海を進む姿が圧巻です。また一般的にキリコを担ぐのは男性ですが、志賀町「西海祭り」の主役は女性たち。漁や航海で不在がちな男性に代わり、女性らが祭りに参加するようになったといわれています。

祭りの期間は3カ月
体験やリピーター獲得も
キリコ祭りは2015年、「郷土の宝である祭りの維持・継承や情報発信による能登地方全体の活性化を図るため」(石川県文化財課担当)日本遺産に認定され、石川県では一般旅行者を対象にモニターツアーを行うなど、商品化に向けた取り組みが行ってきました。実際キリコ祭りは7〜9月の約3カ月にわたり各地で開かれ、祭り自体も地域ごとに個性的であることから、リピーター獲得やシリーズ化の可能性も。

輪島市の輪島キリコ会館ではキリコを担ぐ体験もできます(1週間前までに要予約)。またキリコ祭りには親戚や友人らに家に招き料理を振る舞う「ヨバレ」という風習があり、珠洲市内の協賛飲食店では、ヨバレをモチーフとした料理が味わえます。祭りのハイライトとなる夜を迎える前に「千枚田、九十九湾など、能登の原風景をご覧いただきたい」と石川県観光企画課担当。風土とともに祭りの魅力を組みこみたい素材です。